

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果市町村受理日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/infomati/onPubli.c.do?JCD=2171900067&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも原点に帰るよう、毎朝夕には理念の唱和をしている。特に開設して9年目に入った今では、新職員教育やベテラン介護職員のマンネリ化を防ぐ為に役立っている。今年(H23年)の5月に1ユニット増設し、新職員も増え平均年齢は一気に若くなった。開設当時の地域の目は信頼の目が変わってきているのが嬉しい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年目の経験豊富な事業所で入居につなげるデイサービスやショートステイも実施している。今年の台風で裏の川が増水した折、区長が見回り後消防署に連絡し、今後の備えとして土嚢を準備してもらうなど地域の一員として深い関係が築かれている。又、近隣の事業所と相互交流し、障がい者授産所の仕事を手伝えるなど、活動の場は横にも広げている。管理者、代表者は、利用者や家族、職員が何でも気軽に話せるような雰囲気作りを心がけており、家族や来訪者からは、「行きやすい」事業所と言われている。外部評価に関して全職員各々が自己評価を行い外部評価の意義を理解し、サービスの質の向上に努力している。利用者一人ひとりに担当者を決め、本人の要望や訴え、体調について把握している。家族にも担当者を通じて利用者の様子を詳しく確認でき、安心できる事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝夕の申送り時に理念を復唱し、利用者の方が安心して生活できる様、職員は常に理念を念頭において努力している。	職員全員で作り上げた理念を毎日振り返り共有をしている。尊厳や安全を重視し、利用者のペースを大切にしながら地域で安心した生活が継続できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春秋にある地域のお祭りには招待され、ホームにイベントがある時は地域の皆さんに来て頂く習慣が定着してきた。秋のお祭りには子供御輿の中継所となり、利用者の方々の手作り作品をプレゼントしている。又、地域の方が講習を受けられた「傾聴ボランティア」の訪問も毎月1回と定着している。	自治会に加入し、地域の一員として廃品回収や草刈りなど町内行事やイベントに参加したり、事業所行事に参加を呼びかけ相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解も深めて頂くよう回覧を回し、不用になった衣類、タオル等の回収を呼び掛け、持って来て頂いたり取りに行く事を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動状況等を報告し、委員会からは質問や意見、地域の状況等の説明を受け利用者様のサービス向上に努めている。自治体や地域で解決出来る事は、区長さんが関係当局と話し合っ解決して頂ける。	運営推進会議では、評価結果や、事業所の活動状況、空き状況を報告し、参加者から事業所への意見を聞いている。また、その意見に関する、地域の方の協力が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の介護保険運営推進会議の事業者代表として参加させて頂いていたり、社会福祉協議会や包括支援センターとは常に連絡を取り合う様にしている。	市役所の依頼で、地区の事業所の代表として会議に参加したり、市職員に個別ケースの相談に行っている。ケアマネジャー協議会や講演会、イベント等の誘いもあり、頻繁に情報交換し交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしてはいけない事は職員全員が常に念頭においている為、ミーティングの外に、引継ぎ、食後の休憩時間等の少しでも空き時間があれば職員同士が話し合い最善の方法を検討し、外に出られた利用者様には職員が付添い納得されるまで散歩を楽しんでいる。	身体拘束しないケア、虐待防止等職員間で徹底している。利用者が外出しそうな時は一緒について行くなど鍵をかけないケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでは、利用者様の担当職員が問題提議をし皆で話し合っている。又、入浴時にも虐待の痕跡を見逃す事のない様注意を払い虐待防止に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のシンポジウムには参加し理解している。現在1名の方が利用されており、後見人の方が面会に来られた場合には、職員が積極的に会話をし相互の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には家族が十分納得出来る様説明し、理解してもらった上で入所する様努力している。その後、不安や疑問がある時はその都度相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の方と職員は良く話が出来ており、家族の要望等、又事業所の要望が聞かれている。家族からの要望は、運営推進会議で報告したり、ミーティングで話し合ったりして利用者や家族に理解して貰っている。	職員は、家族が気軽に声を掛け、意見を言い易い関係を築いている。事業所の環境、医療による相談、介護方法等些細なことまで意見を汲み取り、早急に対処するため、ミーティングで話し合ったり、運営推進会議で報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常日頃身近にいて、どんな些細な問題でも相談にのり職員が働き易い様努力している。又、話を聞いてもらう事により、仕事の意欲向上ともなる。ミーティングや飲み会などでは意見や提案の連続でにぎやか。	毎月開催の全員参加のミーティングでは、職員の意見、要望を聞く機会を設けており、勤務体制等活発に意見が出ている。職員と管理者は意見を言い易い関係ができており、新人職員には、中堅職員を介し、意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者も現場におり、話し易い場を作っている。日頃から意見交換をし、職員の資格取得に向けた支援を行ない、良くして行こうと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対して経験豊かな職員が交互につき研修に当たる。一般職員の研修がある時は参加する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、イベント毎ではあるが招待したりされたりしている。 今後、ネットワークづくりや勉強会に発展させたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員は常に利用者さんに対し目配りし、コミュニケーションを密にする事により、信頼関係を築くよう努力している。どんな些細な事でも相談にのり、困っている事、不安な事など話される中、安心して頂ける言葉掛けや介助にて関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にはホームに在所して頂いたり、手紙、電話等で状況を共有し、一方通行にならない様協力を求める事により、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要としている事を情報アセスメントの中で職員も含めて検討し、本人、家族にとって一番良い方向に持っている様勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「個人を尊重する」という理念のなかで、大先輩である利用者の方それぞれに見合った仕事をして頂き、共に出来る事は行い、後は見守りをして信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を手紙にしたり、ホームに在所された時は担当職員が対応し、利用者との関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問は大歓迎であり、職員は開放感のある、しかし、落ち着いた雰囲気作りを心がけている。陽気の良い日は、馴染みの場所を忘れない為に周辺をドライブし、思い出されると会話が弾む。	知人や友人等の来訪者がある場合、職員が見守ったり、会話の中に入って盛り上げたり、雰囲気作りに努めている。外出時には、馴染みの場所を通り、懐かしんだり、アルバムと一緒に見て昔話に花を咲かせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の会話に加わり、アルバム等を見ながら、昔話、家族の事などを話す事により、お互い同じ立場にいることを理解して頂く様心掛けている。又、利用者同士の関係も考慮し、席の配置などお互いがよりよい環境になる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退所後も、職員が代わる代わる見舞いに行ったり、家族の相談や支援など必要に応じて連絡にも心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の希望を常に伺い、言葉や表情から何を要望されているかを本人や家族から情報を集め、希望に添える様努力している。例えば、本人が希望した場所、馴染みの公園、神社等へドライブに行く。	日頃より職員が利用者の気持ちを聞いている。困難な場合には、家族から趣味や好きな物、場所等の情報を得て、縫い物や草取り、誕生日に好物を食べに行ったりして、気持ちに沿うようなケアをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、個々の好み、趣味、昔話などを聞き情報を集めている。又、今まで聞いた事もないことや、アセスメント等にも情報が無い場合には家族に聞いたりして情報の収集は欠かさない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し、心の状態、変化を素早く気づき、日報、申し送りノート等により、全職員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に個々の担当者が生活状況を報告し合い、問題点等を話し合い、家族、主治医との話し合いにより、体調の変化、精神的変化に関してもより一層現状に即す様にしている。	家族や主治医とは常に情報交換を行っている。月1回のミーティング時に、担当職員が状況報告し、職員全員で話し合いモニタリングをしている。状態に変化があれば、その都度、介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日報に個別記録し、毎日(朝、夕)の申し送りにて情報を報告し、気づきノートがあり、全ての職員が出勤時に記録を読む様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院、買い物、銀行へ行く時等の付添い、送迎など柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から得た情報により、公共の施設(図書館・コミュニティーセンター等)を利用している。又、地域のイベント時には利用者全員で作った作品や個人で作品などを出品させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある場合は、かかりつけ医に通院し、かかりつけ医のない利用者は月2回の訪問診療で受診出来る様になっている。又、家族がかかりつけ医に行けない場合は職員が付添う事もある。	かかりつけ医に受診する際は同行する家族に、日頃の状況を伝え、受診結果については聞いている。家族の協力が得られない場合、総合病院や歯医者等の受診には、職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない為、介護職員が体調、顔の表情の変化を見逃さない様にし、異常がある場合は主治医の診察を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院した際、管理者は毎日利用者を見舞い、病院関係者と密に情報を交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、重度化した場合の事を思っ他施設への申込みも早めに行なう様説明し支援も行なっている。	契約時に、食事が取れなくなった場合は、事業所での生活が困難であることを説明している。病院退院後戻れない場合は、事業所も協力して受け入れ先を探している。重度化し他に受け入れ先がなく、家族が希望した場合は、話し合い、事業所のできる範囲まで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が消防署の指導により消火訓練、救急救命訓練、避難訓練、AEDの取り扱い方を定期的実践し緊急時対応についてのマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての職員が防災、避難訓練を定期的に行ない、避難経路、避難場所等は地域との協力体制が出来ている。	避難用の滑り台を使い定期的に、職員、利用者との訓練を行っている。台風時、裏の川の増水について今後の避難の対応を話し合い、水害、地震等災害別訓練も実施しているが、夜間想定訓練や地域住民の参加がない。	特に夜間は職員の数も少なく、災害時には地域住民との連携、協力は欠かすことができない。地域住民の参加を呼びかけ協力を得て夜間想定等の訓練を実施することを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼掛けに関しては、入居時に本人や家族と話し合い、利用者が承諾された名前ですべて呼んでいる。職員に対しては、幼稚言葉や命令口調、否定などしない配慮をするよう指導をしている。	排泄時、周りに人のいる時は羞恥心に配慮し、耳元でささやくように声掛けしている。また、部屋に入る際には、必ずノックしている。呼び掛けには了解を得た呼び名を使用し、命令形でなく問いかけの形を取り人格を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話をしたい時、お墓参りに行きたい時、美容院に出掛けたい時等、本人の希望がいつでも言える様な雰囲気作り心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時ゆっくりして欲しい人、早く就寝したい人、テレビを観たい人、手芸をしたい人、昼間横になりたい人それぞれその人に合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った着易い服装を本人の意向で決められる人は決めてもらい、支援が必要な人にはアドバイスをしている。毎月理容師が訪問し低料金でカットしていただける。家族が来て行き付けの店に行かれる人もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感、いろどり等を考え、好みも取り入れた献立にしている。手伝いが出来る人には出来る範囲で盛付けや後片付け等を手伝って頂いている。	利用者の希望や天気を見て外出し、屋外で弁当を食べている。利用者と下膳、お皿拭きなど後片付けをしているが、職員と利用者は別の食卓で食事をしており、静かで会話もなく、様子観察や、緊急対応等心配な部分も見られる。	職員も利用者と同じ食卓を囲み、会話をするなど楽しい食事時間を過ごし、緊急時にも対応し易い工夫をされた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が個々に違うのでその人にあつた分量とし、又水分は特に注意して、極力飲用してもらう様心掛けて記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口ゆすぎ、歯磨、舌の苔取り等イオン水での口腔ケアを介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便は朝決まった時間にトイレ誘導、排尿は時間を見計らって誘導。その人に合わせて、布パンツ、リハビリパンツ、パット等の使用をしている。排泄パターンはバイタル表に記録され全職員が共有出来、排泄に異常があれば主治医と相談し指示を仰ぐ。	各自の排泄パターンを把握し、おむつ使用の人も日中は使用せず、個別に声をかけ、誘導している。重度の利用者も、3人介助で昼間はトイレに移乗するなど、自立に向けた努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫は勿論、水分補給、毎日の運動を行なっている。どうしても薬を服用する場合は、主治医と相談の上個々の状態に合わせて、使用量、使用日数等工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調、気分を考慮し、入浴剤にもリラックス出来る様な物を使い、湯の温度もその人に合わせる様にしている。拒む方には職員の声掛けや対応の工夫をし、チームプレー等で入浴支援をしている。	家庭浴槽と、重度になっても対応できる2種類の浴槽が選択でき、毎日の入浴や同性介護も可能である。入浴を嫌がる傾向の利用者に、病状や服薬など原因を探り、入浴できるようになった例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせ、日中は体操、歌等のレクリエーションを通し、外出や日光浴をしたりする事で安眠出来る様にしている。夜間の就寝時間も、本人の生活リズムが崩れない程度で床について頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬箱から、用意する人、確認し服用させる人を決めている(全職員が把握している)。又、症状の変化は送り帳で確認したり口頭で確認する。納得がいかない場合は他の職員とも確認する。又、薬の目的や副作用、用法や用量については各個人の薬箱に説明書が入っておりいつでも確認する事が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作り物、カラオケ、又食事の後片付け等を行なって頂いたり、誕生日には担当者が行きたい所、食べたい物等本人の希望を聞いて外出計画を立て、楽しんで過ごす日を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々にドライブ、花見、紅葉狩り等に出掛けている。お弁当持ちで出掛ける時も時々ある。	体調や季節を考慮して、天気が良ければ、お弁当持参で公園へ出かけ散歩している。また、地域から誘われる福祉祭り等イベントや、四季折々のドライブに、車椅子利用者を含む希望者全員で外出を楽しんでいる。	

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には多額なお金は持たない様に理解して頂いているが、自己管理している人と、事務所で預かり必要に応じて確認しながら出し入れを行なえる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援している。手紙は自分で書かれない利用者が多い為職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日の掃除により臭いがなく、衛生面では手摺、ドアノブ等を毎日消毒し、日々不快がない様気をつけている。光や温度調整もこまめに行ない、玄関ホールには毎月季節に応じた作品を展示したり、狭い畑に季節の野菜が出来、草花も咲いている。	玄関には季節の花を飾ったり、柿を置くなど季節感を出している。廊下や玄関には、利用者の絵や手芸作品が飾られ、共用スペースには多くのソファが並べられ、利用者は思い思いの場所でゆったりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ・テーブルが設置してあり、本を読んだり、お喋りをしたり、テレビを観たりと自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みのタンスの上には、孫や家族の写真が置いてあったり、又仏壇が置いてあり、本、アルバム、新聞などを持ち込み自由に過ごしてみえる。	居室入り口には、表札がかけられ、使い慣れたタンス、大切にしている家族の写真、位牌、家族からの贈り物を持ち込んでいる。手作り小物、昔作った品などを飾り、自分らしく居心地良く暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計がいたる所に設置してあり、トイレ表示は矢印を用いて解り易くしてある。表札は特製の木の物と、目線にはひらがなの物が掛けてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果市町村受理日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/inf/onmati/onPubli.c.do?JCD=2171900067&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝夕の申送り時に理念を復唱し、利用者の方が安心して生活できる様、職員は常に理念を念頭において努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春秋にある地域のお祭りには招待され、ホームにイベントがある時は地域の皆さんに来て頂く習慣が定着してきた。秋のお祭りには子供御輿の中継所となり、利用者の方々の手作り作品をプレゼントしている。又、地域の方が講習を受けられた「傾聴ボランティア」の訪問も毎月1回と定着している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解も深めて頂くよう回覧を回し、不用になった衣類、タオル等の回収を呼び掛け、持って来て頂いたり取りに行く事を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動状況等を報告し、委員会からは質問や意見、地域の状況等の説明を受け利用者様のサービス向上に努めている。自治体や地域で解決出来る事は、区長さんが関係当局と話し合って解決をして頂ける。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の介護保険運営推進会議の事業者代表として参加させて頂いていたり、社会福祉協議会や包括支援センターとは常に連絡を取り合う様にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしてはいけない事は職員全員が常に念頭においている為、ミーティングの外に、引継ぎ、食後の休憩時間等の少しでも空き時間があれば職員同士が話し合い最善の方法を検討し、外に出られた利用者様には職員が付添い納得されるまで散歩を楽しんでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでは、利用者様の担当職員が問題提議をし皆で話し合っている。又、入浴時にも虐待の痕跡を見逃す事のない様注意を払い虐待防止に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のシンポジウムには参加し理解している。現在1名の方が利用されており、後見人の方が面会に来られた場合には、職員が積極的に会話をし相互の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には家族が十分納得出来る様説明し、理解してもらった上で入所する様努力している。その後、不安や疑問がある時はその都度相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の方と職員は良く話が出来ており、家族の要望等、又事業所の要望が聞かれている。家族からの要望は、運営推進会議で報告したり、ミーティングで話し合ったりして利用者や家族に理解して貰っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常日頃身近にいて、どんな些細な問題でも相談にのり職員が働き易い様努力している。又、話を聞いてもらう事により、仕事の意欲向上ともなる。ミーティングや飲み会などでは意見や提案の連続でにぎやか。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者も現場におり、話し易い場を作っている。日頃から意見交換をし、職員の資格取得に向けた支援を行ない、良くして行こうと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対して経験豊かな職員が交互につき研修に当たる。一般職員の研修がある時は参加する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、イベント毎ではあるが招待したりされたりしている。今後、ネットワークづくりや勉強会に発展させたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員は常に利用者さんに対し目配りし、コミュニケーションを密にする事により、信頼関係を築くよう努力している。どんな些細な事でも相談にのり、困っている事、不安な事など話される中、安心して頂ける言葉掛けや介助にて関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にはホームに在所して頂いたり、手紙、電話等で状況を共有し、一方通行にならない様協力を求める事により、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要としている事を情報アセスメントの中で職員も含めて検討し、本人、家族にとって一番良い方向に持っていく様勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「個人を尊重する」という理念のなかで、大先輩である利用者の方それぞれに見合った仕事をして頂き、共に出来る事は行い、後は見守りをして信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を手紙にしたり、ホームに在所された時は担当職員が対応し、利用者との関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問は大歓迎であり、職員は開放感のある、しかし、落ち着いた雰囲気作りを心がけている。陽気の良い日は、馴染みの場所を忘れない為に周辺をドライブし、思い出されると会話が弾む。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の会話に加わり、アルバム等を見ながら、昔話、家族の事などを話す事により、お互い同じ立場にいることを理解して頂く様心掛けている。又、利用者同士の関係も考慮し、席の配置などお互いがよりよい環境になる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退所後も、職員が代わる代わる見舞いに行ったり、家族の相談や支援など必要に応じて連絡にも心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の希望を常に伺い、言葉や表情から何を要望されているかを本人や家族から情報を集め、希望に添える様努力している。例えば、本人が希望した場所、馴染の公園、神社等へドライブに行く。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、個々の好み、趣味、昔話などを聞き情報を集めている。又、今まで聞いた事もないことや、アセスメント等にも情報が無い場合には家族に聞いたりして情報の収集は欠かさない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し、心の状態、変化を素早く気づき、日報、申し送りノート等により、全職員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に個々の担当者が生活状況を報告し合い、問題点等を話し合い、家族、主治医との話し合いにより、体調の変化、精神的変化に関してもより一層現状に即す様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日報に個別記録し、毎日(朝、夕)の申し送りにて情報を報告し、気づきノートがあり、全ての職員が出勤時に記録を読む様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院、買い物、銀行へ行く時等の付添い、送迎など柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から得た情報により、公共の施設(図書館・コミュニティーセンター等)を利用している。又、地域のイベント時には利用者全員で作った作品や個人で作品などを出品させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある場合は、かかりつけ医に通院し、かかりつけ医のない利用者は月2回の訪問診療で受診出来る様になっている。又、家族がかかりつけ医に行けない場合は職員が付添う事もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない為、介護職員が体調、顔の表情の変化を見逃さない様にし、異常がある場合は主治医の診察を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院した際、管理者は毎日利用者を見舞い、病院関係者と密に情報を交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、重度化した場合の事を思えば他施設への申込みも早めに行なう様説明し支援も行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が消防署の指導により消火訓練、救急救命訓練、避難訓練、AEDの取り扱い方を定期的実践し緊急時対応についてのマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての職員が防災、避難訓練を定期的に行ない、避難経路、避難場所等は地域との協力体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼掛けに関しては、入居時に本人や家族と話し合い、利用者が承諾された名前で行っている。職員に対しては、幼稚言葉や命令口調、否定などしない配慮をするよう指導をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話をしたい時、お墓参りに行きたい時、美容院に出掛けたい時等、本人の希望がいつでも言える様な雰囲気作り心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時ゆっくりして欲しい人、早く就寝したい人、テレビを観たい人、手芸をしたい人、昼間横になりたい人それぞれその人に合わせる様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った着易い服装を本人の意向で決められる人は決めてもらい、支援が必要な人にはアドバイスをしています。毎月理容師が訪問し低料金でカットしていただける。家族が来て行き付けの店に行かれる人もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感、いろどり等を考え、好みも取り入れた献立にしている。手伝いが出来る人には出来る範囲で盛り付けや後片付け等を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が個々に違うのでその人にあつた分量とし、又水分は特に注意して、極力飲用してもらう様心掛けて記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口ゆすぎ、歯磨、舌の苔取り等イオン水での口腔ケアを介助している。		

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便は朝決まった時間にトイレ誘導、排尿は時間を見計らって誘導。その人に合わせて、布パンツ、リハビリパンツ、パット等の使用をしている。排泄パターンはバイタル表に記録され全職員が共有出来、排泄に異常があれば主治医と相談し指示を仰ぐ。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫は勿論、水分補給、毎日の運動を行なっている。どうしても薬を服用する場合は、主治医と相談の上個々の状態に合わせて、使用量、使用日数等工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調、気分を考慮し、入浴剤にもリラックス出来る様な物を使い、湯の温度もその人に合わせる様にしている。拒む方には職員の声掛けや対応の工夫をし、チームプレー等で入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせ、日中は体操、歌等のレクリエーションを通し、外出や日光浴をしたりする事で安眠出来る様にしている。夜間の就寝時間も、本人の生活リズムが崩れない程度で床について頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬箱から、用意する人、確認し服用させる人を決めている(全職員が把握している)。又、症状の変化は送り帳で確認したり口頭で確認する。納得がいけない場合は他の職員とも確認する。又、薬の目的や副作用、用法や用量については各個人の薬箱に説明書が入っておりいつでも確認する事が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作り物、カラオケ、又食事の後片付け等を行なって頂いたり、誕生日には担当者が行きたい所、食べたい物等本人の希望を聞いて外出計画を立て、楽しんで過ごす日を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々にドライブ、花見、紅葉狩り等に出掛けている。お弁当持ちで出掛ける時も時々ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には多額なお金は持たない様に理解して頂いているが、自己管理している人と、事務所で預かり必要に応じて確認しながら出し入れを行なえる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援している。手紙は自分で書かれない利用者が多い為職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日の掃除により臭いがなく、衛生面では手摺、ドアノブ等を毎日消毒し、日々不快がない様気をつけている。光や温度調整もこまめに行ない、玄関ホールには毎月季節に応じた作品を展示したり、狭い畑に季節の野菜が出来、草花も咲いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファー・テーブルが設置してあり、本を読んだり、お喋りをしたり、テレビを観たりと自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みのタンスの上には、孫や家族の写真が置いてあったり、又仏壇が置いてあり、本、アルバム、新聞などを持ち込み自由に過ごしてみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計がいたる所に設置してあり、トイレ表示は矢印を用いて解り易くしてある。表札は特製の木の物と、目線にはひらがなの物が掛けてある。		